

令和6年度

# 上富良野小学校

## 校内研究・研修 提案

本日の  
内容

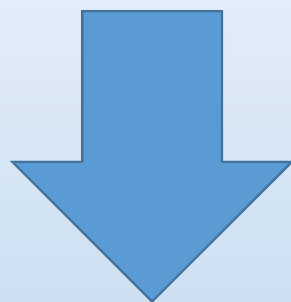
これまでの  
研修・研究

今年度の  
研修・研究

校内研修の  
進め方

# 1. これまでの校内研修・研究

# 上小の研究の特徴



「研修を兼ねる研究」へ

教員の指導力向上

児童の学力向上

令和5年度 研究主題

児童一人一人が 学び合い 高め合う 上小っ子の育成

目指す子ども像①

自ら決定し、やり抜く子

資質・能力①

自分の学び方、学ぶ内容を選べる力

実践①

個別最適な学び

目指す子ども像②

自分と他者の考えの違いや、良さに気づく子

資質・能力②

お互いに支え合い、話し合って学習する力

実践②

協働的な学び

## 【令和5年度の成果】

- 振り返り(シート・Excel・Teams)によって、自分の学習を見える化することができ、主体的に取り組むことにつながった。
- 自由進度学習を取り入れることで、できる子にも低位の子にも有意義な取り組みであった。
- 自由に交流できる環境を設定することで、様々な考えに触れ、考えを広げたり、深めたりすることができた。
- 自由な交流によって、個別→協働→個別に戻って、最後まで粘り強く取り組む姿も見られた。

(分析結果・アンケートより)

## 【令和5年度の課題】

- 教師のファシリテーター的な役割の声かけのタイミングの難しさ
- 必要感のある交流場面の設置
- 学校全体での振り返りの系統化
- 自由進度学習の使い分け、児童が効率的に進められる手立ての工夫
- 考えを共有して協働的に学んでいくこと自体の練習も必要  
(特に低学年)

(分析結果・アンケートより)

令和6年度

# 上富良野小学校

## 校内研究・研修 提案

本日の  
内容

これまでの  
研修・研究

今年度の  
研修・研究

校内研修の  
進め方

## 2. 今年度の校内研修・研究

## ～上小の児童の実態～

- 自分で考えて表現する力が足りない。
- 言葉を知らない、表出が苦手。
- ヒントや見通しが無いと考えられない。
- 四則計算の能力に欠ける。
- 問題をイメージする力が足りない。
- 日常の経験が足りない。
- ICT操作の差が大きい。

【教育目標】 まなぶ子 かかわる子 つくる子

【令和6年度 重点目標】 「わかった！できた！をその先へ」  
～子どもたちを主人公とした授業づくりを通して～

【令和6年度 研究主題】

児童一人一人が 学び合い 高め合う 上小っ子の育成

【目指す子ども像①】

自ら決定し、やり抜く子

【目指す子ども像②】

他者の考えから、学べる子

【資質・能力①】

目の前にある事象や課題に背を向けず  
自分の力で粘り強く立ち向かう力

【資質・能力②】

他とかかわりながら、  
よりよい考えやものを創り出していく力

【実践】

協働的な学び

個別最適な学び

基礎基本の定着    ふりかえりの焦点化    ICT利活用    継続した書く指導

# 考えられる取り組み例

【目指す子ども像①】

自ら決定し、やり抜く子

【資質・能力①】

目の前にある事象や課題に背を向けず  
自分の力で粘り強く立ち向かう力

- ・ 学習計画表から見通しをもつ
- ・ 学習を進められる手立て
- ・ 学習ツールを選べる環境（動画・教科書・資料集等）
- ・ 自由進度学習（1時間内・単元内など）
- ・ 習熟度別問題（プリント・ICT）
- ・ 自己調整力の育成（ふり返りの焦点化）

# かえ してん ふり返いの視点

## 1 学習内容について

- ・何ができた？
- ・どこでつまずいた？ 何？

## 2 友達との関わり

- ・友達の考えは？
- ・友達の考えは？ 何？

## 3 次時に向けて

- ・次時やるべきことは？
- ・疑問点は？ 何？

## 4 学び方について

- ・何ができた？
- ・何ができた？ 何？

## 5 他教科や生活との関わり

- ・何ができた？ 何？

自分視点  
自分視点

客観的な視点  
客観的な視点

- ・ 低学年～自分視点を中心に
- ・ 高学年～客観的な視点  
(メタ認知) を中心に
- ・ 場合によっては、ふり返りの視点を指定する。

# 考えられる取り組み例

【目指す子ども像②】

他者の考えから、学べる子

【資質・能力②】

他とかかわりながら、  
よりよい考えやものを創り出していく力

- ・ 交流しやすい雰囲気づくり
- ・ 自分の考えを伝えるためのスモールステップの用意
- ・ ICT利活用（Teams・スマイルネクスト等）
- ・ 柔軟な学習への取り組み  
（個人・ペア交流・グループ交流）
- ・ 協働での意見集約・協働制作（ワード・パワポづくり）

# 土台が大事！ = 基礎・基本の定着

## 【基板】

- ◎ 単元計画の工夫（変容の見取り＝評価まで）
- ◎ 課題、まとめ、振り返り
- ◎ ゴールの設定
- ◎ 児童どうしの対話

## 【基礎・基本】

- ・ 計算トレーニング
- ・ レディネステスト
- ・ マナビーランドの活用
- ・ 練習問題の時間の確保
- ・ プレテスト
- ・ 家庭学習（授業との連携）

基礎・基本を身につける手立て

令和6年度

# 上富良野小学校

## 校内研究・研修 提案

本日の  
内容

これまでの  
研修・研究

今年度の  
研修・研究

校内研修の  
進め方

### 3. 校内研修の進め方について

# 校内研究・研修は4種類





# 公開授業



○学年で年間2つの授業を公開する。

**指導案を作成する公開授業**と**略案の公開授業（ライト版）**  
(本時案と研究とのつながり)

○実践する教科は学年で自由に決める。

○単元を見通した計画を立てる。

○**指導案**は事前・事後にブロックで検討し、評価・分析まで行う。

○参観はブロックに限らず、可能な範囲で参観しましょう。

○ブロック内で担当を分ける。しえんの先生が授業者でも構わない。

○**ライト版**はI・II期研の期間内でもなくとも構わない。

○I期とII期で教科が異なっても構わない。

# I 期研 (6/24~7/26)

指導主事訪問 (7/10予定)

指導案を作成する公開授業 3本  
(例えば・・・2・3・6年)

ライト版 3本  
(例えば・・・1・4・5年)



# II 期研 (11/11~11/29)

指導案を作成する公開授業 3本  
(例えば・・・1・4・5年)

ライト版 3本  
(例えば・・・2・3・6年)



# うきうき ウォッチング

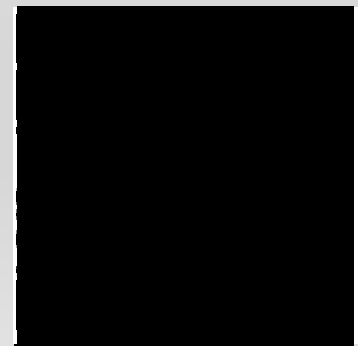
～あっち こっち そっち こっち いいとも♪～

- 学級で授業を実践する。
- 本時案（略案）は**無し**！（作ったものがある人はぜひ共有を！）
- 教科の限定は**無し**！
- 事前・事後の検討は**無し**！（希望があれば行います。)(お礼は大事！)
- 参観は自由。45分見れなくても、導入だけでもOK！
- ぜひ、様々な教科での個別最適・協働的な学びを！**
- 研究係もしくは誰かに「見せてくれるかな？」と言われたら、ぜひ快く「いいとも～」と仰ってください。
- どんどん授業を見せ合いましょう。



## 三二研

- 毎回の研修日の冒頭5～10分程度で行います。
  - 様々な先生の得意をみんなで共有させてください！
  - 先生方が知りたいこと、学びたいこと、引き出しを増やしたいことを聞き、その分野を得意としている先生に短時間で紹介してもらったり、体験したりして学びを深めていきます。
- ※昨年度は、ICTの内容を中心に実施  
(TeamsやL-gateの使い方、学級遊び等)





# 実技研

- 毎年、夏季休業の最終日を利用して実施します。
  - ミニ研よりも少し長めに設定し、体験を中心にみなさんで学びを深められればと考えています。
- ※昨年度はミライシードの使い方を実施しました。  
(例：準備運動、リコーダー、版画指導のコツ、  
プログラミング、ICT利活用 等)

# ご静聴ありがとうございました。

難しいからやめよう、不安だからやめよう、そうしていればたしかにリスクは回避できるかもしれない。でも、決して前には進めない。

栗山英樹 著「未徹在」より



みんな楽しく、何か一つでも研究やってよかったと思える1年にしていきましょう！！

# 令和の授業デザインとして求められているもの



## 多様性を重視した教育・人材育成

### ICTの有効活用

#### 個別最適な学び

指導の個別化・・・すべての子がその子に合った方法で、その子に合った目標を達成できるように指導すること。

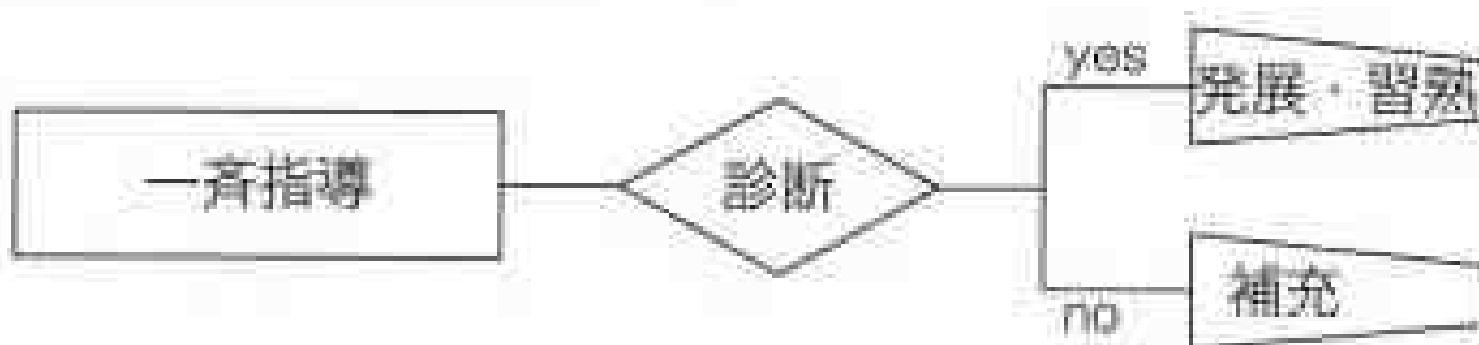
学習の個性化・・・どの子も自分の興味・関心に合った学習を行ったり、自分に合ったアウトプットの方法で表現したりすること。

#### 協働的な学び

ICT端末を活用して、同じ学年、同じクラスに限らず、異なる学年の生徒や地域の人などと情報を共有しながら、ともに学び、主体性を育むこと。

# 完全習得学習（マスタリーラーニング）

☆一斉指導を補足する個別学習

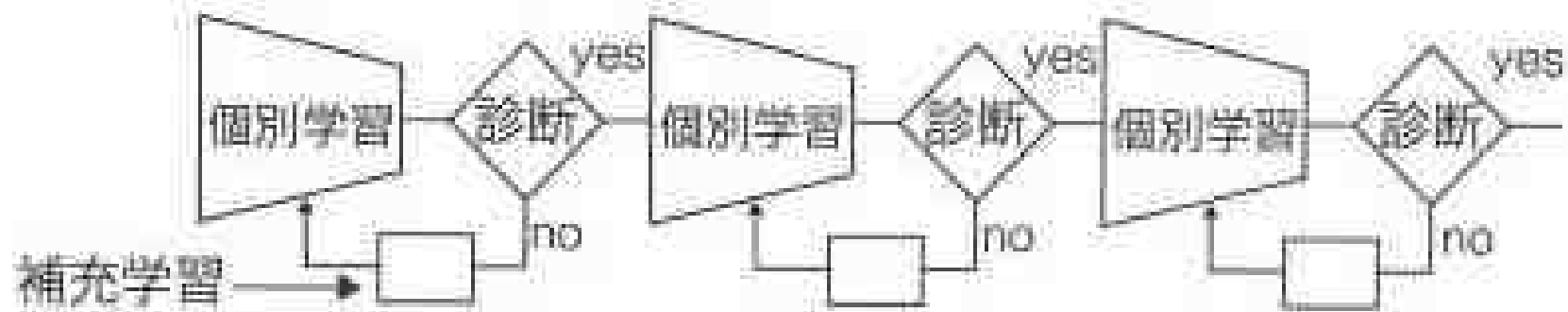


- 1 単位時間、または、2～3 時間、小単元で行う
- 授業の前半は一斉指導。小テスト、問題などで診断。  
ねらいに到達した子→発展・習熟 不十分な子→補充

（「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」より）

# 自由進度学習

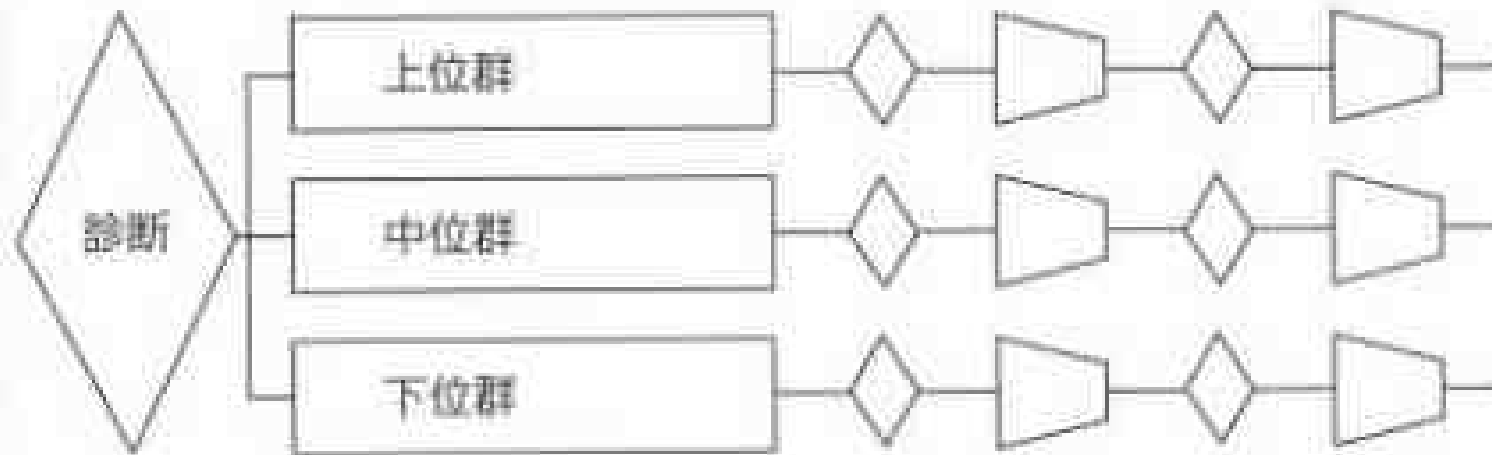
☆自分のペースで進める学習



- 診断は教師、または自己採点。
  - 課題ができたなら、次へ進む。
  - できなかつたら場合は補充学習をしたり、再度課題に取り組む。
- (「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」より)

# 到達度別学習

☆到達度に応じたグループをつくり、それぞれに合わせた学習を行う。

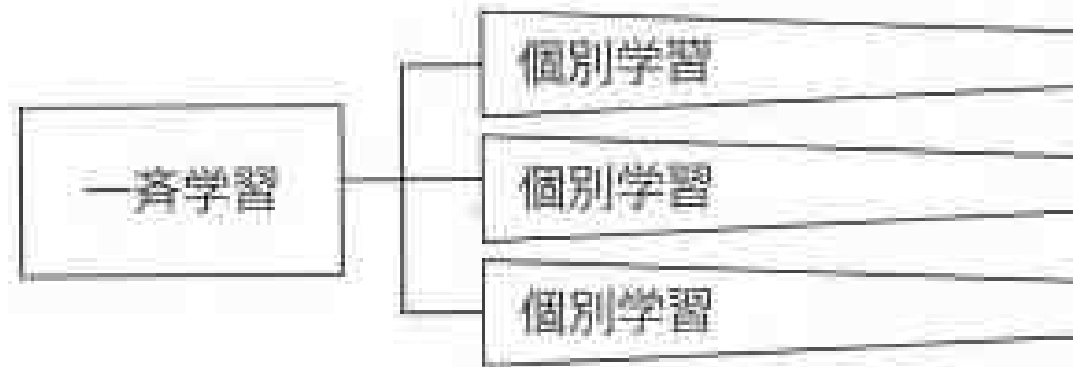


- 2つ、3つの小集団を形成し、学習する。
- いわゆる、少人数指導で行う。

(「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」より)

# 課題選択学習

☆自分の学習スタイルや興味関心に合わせて学習する。



- 一斉指導ののちに学習方法や学習内容別に行う。
- 小単元、単元レベルで行う。

(「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」より)

# 個別最適な学習を進める上で…

- 見通しを持たせること。
  - 自分の学習の進み具合をメタ認知しながら進められるようにすること。  
⇒振り返りシート等の活用の継続
  - 誰が「最適にするのか？」→「子どもが」という視点をもつこと。
  - 多様なやり方を教師が提示して、子どもが経験を重ねること。
- 
- 定められた内容を学習するだけではなく、自分の疑問を追求したり、何かをつくったりすることは、より自分らしい「学び」である。

(「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」より)

【実践②】

# 協働的な学習とは



・「子どもたちがお互いに支え合い、話し合いながら学習すること」



・構成的「協働的な学び」と非構成的「協働的な学び」の使い分け

・「ICTを活用することで、他の人の考えを簡単に知ることができる。」

(「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」より)

## 【単元計画のデザイン (P)】

- ・ 児童の実態把握
- ・ 大課題の設定
- ・ 言語活動の選択
- ・ 変容を見取る場面（評価場面）の設定

## 【授業実践 (D)】

- ・ 課題，まとめ，振り返り
  - ・ 評価場面の明確化
  - ・ 目的に応じた言語活動
  - ・ 児童間の対話
- ※児童間の対話については，コロナの関係上，一斉スタイルの中で行うことを意識する。

**PDCAサイクルで  
授業改善！**

## 【改善 (A)】

- ・ 効果のあったことを次に生かす。
  - ・ 変容が見られなかった要因を調べ改善する。
- ※次の単元につなげ，スパイラルアップさせて，継続的に授業改善を行っていく。

## 【評価・分析 (C)】

- ・ 「見通す力」「読解力・表現力」
  - ・ 「単元の中で身に付けさせたい力」
- ※研究に関わる側面と単元に関わる側面の両面を評価し，どう変容しているかを分析する。

## 平成30年度 研究主題

「みんなに伝えよう！」楽しく主体的に学び合う上小っ子の育成  
～思考力、判断力、表現力を育てる算数科の言語活動を通して～



### 【課題】

- ・問題文の意味を理解できない。
- ・言語での表現が苦手。
- ・自分の課題にじっくり向き合うことができない。
- ・仮説検証型から日常改善型へ。
- ・研究内容の縛りが強い。

日常化

令和元年度 研究主題

教科グループごと

粘り強く考え よりよいものをつくりあげる 上小っ子の育成



☆この年から「研修を兼ねる研究」へ

教員の指導力向上

児童の学力向上

## 【課題】

- ・今求められている「授業改善」が不足。
- ・読解力、作文力、説明力が欠けている。
- ・全体的にぼやっとしている。

## 令和2年度 研究主題

粘り強く考え よりよいものをつくりあげる 上小っ子の育成

～国語科を通して～



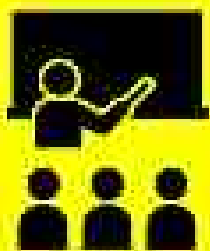
「見通す力」  
「読解力・表現力」

☆国語科を窓口に  
(他教科への活用を見越して)

### 【課題】

- ・読解力に課題。
- ・評価・分析に難しさがある。

公開授業



ミニ研



実技研



うきうき  
ウォッチング



「令和の日本型学校教育」における学びのイメージ（たたき台）

**主体的な学び**  
 学びごとに興味や関心を持ち、自分の学びの進め方やペースと調整しながら、意欲を持って学びに取り組む。自分の学習活動を振り返って気づく。

**対話的な学び**  
 学びのなかで、教師や仲間と対話、自分の考えや学びの進め方を伝え、自分の考えや学びの深まりを促す。

**深い学び**  
 習得・活用・探究の学びの過程の中で、各教科等の特質に応じて、見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題発見・解決を通して学びの意義を実感し、思いや考えを主体に展開し、学びに意欲を高める。

**主体的・対話的で深い学び**

学習指導要領 編制 第3 教育課程の実施と学習評価

学習指導要領 編制 第4 児童(生徒)の発達への支援



**個別最適な学び**（教科書等で「個」に応じた指導）

個別指導 一人ひとりの学習進度や理解度に応じて、個別に指導を行う。教科書や教材を基に、一人ひとりの学習進度や理解度に応じて、個別に指導を行う。



**協働的な学び**

協働学習 一人ひとりの学習進度や理解度に応じて、互いに学びを深め合う。教科書や教材を基に、一人ひとりの学習進度や理解度に応じて、互いに学びを深め合う。

これからの学校では——一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる特徴を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り換え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29、30年改訂  
 学習指導要領 編制